令和元年度　　　　鳥栖市立若葉小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
「美しい心をもち　自分で考え　やりぬく子」の育成 ～元気いっぱい　笑顔かがやく若葉っ子～	①　心の教育（道徳，人権・同和教育，UD教育）による自己有用感の高まりと豊かな心の育成 ②　若葉授業と家庭学習習慣の定着による確かな学びの積み上げ ③　承認・称賛と共通の指導による規範意識・判断力の育成 ④　「出番・役割の設定→承認・称賛」のスパイラルによる主体的な態度の育成

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　自己肯定感の高まりと道徳教育による豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●心の教育	・道徳科の授業を中心とした全教育活動における道徳教育の充実	・道徳科の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 ・相手がいやがる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。 ・道徳科の授業，全クラス標準時数以上の達成率とする。	・教師間で授業の取り組み等について話すことで思いの共有を図る。 ・誰でもいつでも取り組めるような環境作りを推進する。（教材の共有化） ・保護者参画型のふれあい道徳を推進し，授業公開する。また学級便り等での道徳科の啓発を図る。 ・年間を通して，年間計画・別葉の見直しを行う。	心部
		・自己肯定感、自己有用感を高める承認・称賛の取り組み	・自分や友だちのよさに目をむけ，承認・称賛する取り組みを通して自己肯定感を高めていき，保護者アンケートで，承認・称賛することで温かな環境づくりに取り組んでいるという割合を90%以上にする。	・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に学校・地域・家庭で取り組み，本校2階のきらきら通りに掲示すると共に温かな環境づくりに努める。教師の積極的なカードの取組を促す。 ・PTAとの連携を図り，心豊かになる教育講演会を実施する。 ・全学級の帰りの会などで友だちの承認・称賛のコーナーを設け，取り組む。	心部
	●志を高める教育	・めあてに向かって挑戦し、努力する児童の育成	・自分のめあてを設定し、意識して努力しようとする児童を90%以上にする。 ・個々の成長に気付き、新たな自分を発見することができる児童を80%以上にする。	・郷土の偉人など、身近な志高い人々の生き方に触れさせる。 ・「～できた」「夢中で取り組んだ」等の感動場面を設定する。	心部
	○特別支援教育	・特別支援教育の視点に基づく児童への関わり ・気になる子の状況や支援方法を共有し，支援する体制づくり	・職員への支援を必要とする児童の理解を深め，支援の方法について共通理解を図り，教師アンケートで，教師一人一人が特別支援教育の視点に立った教育活動に努めているという割合を95%以上にする。	・LD・ADD等の発達障害など幅広く障害についての研修を行い，職員の理解を深める。 ・校内支援委員会で，気になる児童について共通理解を図る。また，その都度ケース会議を行い，具体的な支援方法を考え，うまく機能している事例は，職員連絡会で知らせる。 ・スクールカウンセラーや専門機関との連携を図る。	心部

②　若葉授業と家庭学習習慣の定着による確かな学びの積み上げ

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●学力の向上	・若葉授業による共通の学び方指導の徹底と基礎・基本の学力向上，活用力の育成 ・自分の思いや考えを伝え合い，つながり合う子どもの育成 ・家庭学習の充実	・「学習の約束」や「学習の構え」の指導を徹底することで，全校児童が落ち着いて学習に取り組めるようにする。 ・基礎基本の学力の定着を目指したスキルタイムを計画的に実施し，全校統一感を持った「若葉授業」を実践する。 ・UD教育を念頭に置いて，学習環境を整えるとともに，デジタル教科書や書画カメラ等のICT機器を活用しながら授業を行う。 ・校内研究を通じて，発達段階・学習過程に応じた友だちタイムを工夫し互いの考えや思いを交流させる。 ・家庭学習の手引きを全家庭に配布し，保護者への啓発を図る。	・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして，全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・学習スタイルとしての学習の約束を教室に掲示し学習の構えとともに，繰り返し指導する。 ・学級活動で問題解決に向けて協働的に話し合う経験を積み重ねさせる。またアンケート調査を行い，児童の変容をみる。 ・スキルタイムの内容については、基礎基本を中心に適時各学年で吟味する。高学年では活用力に関わる問題にも取り組ませる。 ・UD教育の共通理解を図り，全学級統一感のある学習環境を整える。 ・家庭学習の手引きを全家庭に配布し、保護者への啓発を図る。 ・全教員がデジタル教科書（国語科・算数科を中心に）を活用するとともに，書画カメラ等を用いて児童のノートや作品，手元の演示を画面に映しながら授業を行う。	学び部
	●教科「日本語」	・教科「日本語」の学習を通して、日本の伝統、文化、ふるさとのよさに気づく子どもの育成	・日本人の心や所作、礼儀作法を理解する学習に取り組む。 ・地域の人材等を活用し、日本の伝統や文化等に気づく学習を推進する。	・毎週計画的に教科「日本語」の学習を実践する。 ・保護者や地域の方々の理解を図るために、全学級で毎年1回以上、授業参観等を実践する。	学び部
	○読書指導	図書館を中心とした読書指導の充実	・積極的に読書指導を行うことにより，児童の読書量（低・中学年100冊，高学年50冊を目標に達成者6割程度をめざす。）を増やす。 ・読書環境を整備する。	・年間の図書の本の貸し出し目標冊数を知らせ，目標を達成できた児童には，その時点で達成したことを伝え，年度末に多読賞を贈る。 ・学期ごとに図書館まつりを行い，児童の読書意欲を喚起する。 ・廊下などの掲示板を利用して読書に関する掲示物を充実させることにより，読書意欲を喚起する。 ・児童が図書館を利用しやすいように環境を整える。	学び部

③　承認・称賛と共通の指導による「若葉スタンダード」の定着，規範意識・判断力の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめ防止に向けた全校的な体制づくりと早期対応 ・人権・同和教育に視点に立った取組	・いじめは絶対に許さないという児童の意識，いじめが起こりにくい集団づくりに取り組み，教職員アンケート，保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であてはまると答えた割合が90%以上にする。	・なかよし集会で学級のなかよし宣言に取り組む。 ・Q-Uを年2回実施し，その結果をよりよい集団づくりを意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ・命を考える日」に，児童は毎月、保護者は学期毎にアンケートを行い，個人の悩みやいじめの早期発見・対応を学校全体で取り組む。	育ち部
	○生徒指導	・開発的生徒指導と連動した，子どもの問題行動に対する生徒指導体制 ・基本的な生活習慣の徹底	・児童の問題行動が発生したとき，迅速に対応できる組織を確立し，児童に対するその後の対応や見守り方について全教職員が共通理解し，指導にあたり，職員アンケートの「問題行動が起こったとき，迅速に学年の先生や管理職と相談し対応している」という項目の「あてまる」の割合を90%以上にする。	・担任，学年，低・中・高学年グループが，連動して対応できるように全教職員で研修し，実践力を養う。 ・問題行動を起こす児童の様々な要因について，全教職員で検討協議し，その後の児童のよりよい指導の方向性を示すようにする。 ・学年をまたがる事案，相手をひどく傷つけてしまう事案については，複数教員での聴き取りを原則として対応・指導し，その日のうちに保護者にも指導の経緯を説明する。	育ち部
	○安全教育	自分や相手の命を守る安全意識の高揚	・安全な自転車の乗り方，登下校時の安全な歩行や，キックボード，ブレイブボードなどを道路では乗らないというきまりを確実に身につけさせ，児童が原因となる交通事故を0にする。 ・自転車に乗る際のヘルメット着用率を上げる。 ・校内での安全な過ごし方や遊具，一輪車等での安全な遊び方を意識させ，校内における事故の防止を図る。 ・防犯ブザー持参率90%以上とする。	・安全な道路の横断や歩行，安全な自転車の乗り方についての交通安全教室を実施しする。 ・学級指導や生活朝会等において，くり返し「自分の命は自分で守る」ことの大切さを指導する。 ・学校安全推進委員会や通学路点検等を通じて，PTAや地域と連携した安全対策を実施する。 ・PTA総会等で，保護者へヘルメット着用の安全性について啓発する。 ・「若葉小学校　遊びのきまり」を作成し，安全に遊ぶための約束やボール，遊具、一輪車等での安全な遊び方について指導する。 ・毎月の防犯ブザー所持率検査を行う。	育ち部

④　「出番・役割の設定→承認・称賛」のスパイラルによる主体的な態度の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●健康・体づくり	健康な体づくりに向けた基本的な生活習慣の定着	・朝食を食べて登校する児童を90%以上にする。 ・食に関する指導目標に沿って、学年に応じた指導を行う。 ・食育に関する情報を発信し，家庭への啓発を行う。	・「早寝・早起き・朝ごはん」を積極的に呼びかけ、夏休み・冬休み明けに生活アンケートを実施する。 ・保健だよりなどで家庭への啓発を行う。 ・食に関する指導年間計画を各学年や担当へ提示し，年間の見通しを持って実施をよびかける。 ・給食センターの先生方を活用しての食に関する授業の実施。	食育
		体力の向上に向けた運動習慣の定着	・天気がよい日は，朝の時間や休み時間に外で遊ぶ児童を90%以上にする。 ・スポーツチャレンジにどのクラス2種目以上参加する。	・体育委員会で「クラスマッチ」を企画することで，呼びかけの機会を増やし，より参加人数を増やす。 ・学級で「みんなで遊ぶ日」を設定したり，晴れの日に外遊びの声かけや放送を行ったりする。 ・リレーカーニバルや水泳大会・なわとび大会など，体育的行事を行い，体力の向上をはかる。 ・各クラススポーツチャレンジに積極的に参加するよう研修の機会を設定する。	体育部
	○主体的な態度の育成	児童会活動，学校行事における子どもの出番・役割の設定	・全校的な児童会活動を活性化する。 ・学校行事の準備や計画，進行などを児童にまかせ，子どもの出番・役割を設定し，主体的な取り組みをしているという児童を90%以上にする。	・代表委員会を通して児童の思いを反映させた取り組みを行う。 ・集会や児童朝会，運動会の進行や準備などで子どもの出番・役割を設定し，主体的に活動に取り組ませる。 ・縦割り班での縦割り活動やあいさつ運動を年間を通して行い，児童に計画・立案・運営させる。 ・常に考える教育を推進し，小集団での話し合い活動を行う。	特活
	○開かれた学校づくり	学習活動における地域人材の活用，保護者や地域の各団体との連携，学校の情報発信	・地域の方々を様々な教育活動の中で学年で必要に応じて1回は，ゲストティチャーとして招く。 ・学校の様子について様々な機会に学校の教育活動について周知し，保護者アンケートの「開かれた学校づくりに努めている」を90%以上にする。 ・ホームページを週に2回は更新する。	・生活科や総合的な学習の時間，教科「日本語」を中心に，地域人材や学校支援ボランティアを活用したり，保護者や地域の各団体，関係機関と連携した学習活動を展開する。 ・学校便りを区長様や民生・児童委員の皆様，老人会等に届け，様々な行事への参観を呼びかける。 ・学校ホームページを随時更新し，学校での様々な取り組みを公開する。 ・色々な分野で地域に出向き，活動するようなアピールの場を設定する。 ・報道機関への取材依頼を積極的に行う。	管理職

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革	働きやすい職場，和やかな職場にし，超過勤務の削減	・いらないと思われる話し合いや会議を減らし，超過勤務時間が月平均30時以内を目指す。 ・勤務の効率化を行うために，職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。 ・仕事の負担の隔たりがないよう，均等に業務の割り当てを行うと共に，一人が孤立しないように，各プロジェクトチームで組織的に動く。 ・互いに相談しやすい体制を確立し，温かい職場にする。	・定時退勤推進日の確実な実行。 ・いつまでも残って仕事するような雰囲気を払拭する。 ・管理職の温かな観察と共に年休や休暇の促進を行う。 ・夏季休業中の早出勤務を促進し，勤務の効率化を図り，早く帰宅できるようにする。 ・職員会議や労働衛生委員会などで全職員の意見を聞きながら，働きやすい職場へと改革を行う。	管理職
	○小中一貫教育	小中一貫教育による系統的・共通的な取り組みの充実	・縦軸の教育（小中一貫教育）の充実を図る教育活動を展開し，ホームページや広報誌で広く取り組みについて公開し，保護者アンケートでの小中一貫の取り組みの周知についての割合を90%以上にする。 ・横のつながり（小・小連携）を大切にし，各種研修会等で話し合いの機会を持つ。	・全教職員が「学力向上」「生活基盤づくり」「心の教育」「特別支援教育」「教科『日本語』」の5つの部に所属し，小中9年間を見通した研究に取り組む。 ・マナー教室や教科「日本語」の実践や田代スタイルの定着等，系統的・共通的な取り組みを実践する。 ・児童・生徒を交流や教師の情報交換を積極的に行い，中1ギャップの解消を図る。 ・教師の交流を密にし，情報交換を随時，積極的行い，問題行動や不登校の解消を目指す。	部会部長

●は共通評価項目のうち必須項目，◎は共通評価項目のうち特定課題，○は独自評価項目